

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 20 日現在

機関番号：28003

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21592842

研究課題名（和文）

小児医療における医療保育士のあり方に関する基礎的研究

研究課題名（英文）

Fundamental study about a medical childcare worker's state in pediatric care

研究代表者

金城 やす子（KINJO YASUKO）

名城大学・人間健康学部・看護学科・教授

研究者番号：90369546

研究成果の概要（和文）：

本研究は、入院児の発達支援に医療保育士が必要であるとした先行研究の結果から、さらにより広い医療保育士の場とその役割の明確化を目的とした。また、医療保育士の質向上を図ることによる小児看護の質向上、そのための医療保育のあり方を検討した。

研究の取り組みの一つとして、医療保育士の配置や医療保育を实践するうえで必要な知識、技術、保育士の配置に伴う子どもの変化など、保育士の配置状況や配置上の問題、保育士に期待すること等の基礎調査を実施した。さらに、医療保育士のニーズの把握とその対応を図り、保育士の質向上に向けた取り組みを実施した。

次に、医療保育の啓蒙、医療保育士の質向上を図るため、学会の開催、医療保育研修会の開催を行った。学会には一般の参加者を受け入れ医療保育士の知名度向上、必要性を啓蒙した。保育士研修会では、保育の質向上を図ることにより入院児の生活支援、保育支援の充実を図った。そのことが、入院児の安心した生活につながると同時に、小児看護の質向上を図ることとなった。

これまで明確にされていなかった医療保育士の業務内容について、3年間の研究で得られた結果をもとに、医療保育士の業務内容を明確にするとともに、経験年数別にチェックできる業務基準を明確にした。このことが、ある程度統一された医療保育業務の提供となり、入院児の支援による小児看護の質向上、入院児の生活の質の向上につながる。

研究成果の概要（英文）：

This research aimed at clarification of the place of the medical childcare worker and its role. The medical childcare worker is required for a child's in hospital development support as a result of precedence research. I examined of aiming at improvement in a medical childcare worker's quality and planning quality enhancement of child care, and the medical childcare for it.

Moreover, I examined the quality enhancement of the child care by planning a medical childcare worker's quality enhancement, and the state of the medical childcare for it.

As one of the measures of research, when practicing arrangement of a medical childcare worker and medical childcare, I conducted basic investigation of counting on a childcare worker's arrangement situations, such as a child's change accompanying arrangement of required knowledge, technology, and a childcare worker, the problem of arrangement, and a childcare worker. Furthermore, I aimed at grasp and its

correspondence of a medical childcare worker's needs, and carried out the measure towards the childcare worker's quality enhancement.

Next, in order to plan enlightenment of medical childcare, and a medical childcare worker's quality enhancement, I performed holding of a society, and holding of medical childcare study session. I accepted ordinary participants in the society and educated a medical childcare worker's improvement in notability, and necessity. At childcare worker study session, I aimed at a child's in hospital assisted living and substantial childcare support by planning quality enhancement of childcare. Quality enhancement of child care will be planned at the same time that leads to the life about which the child in hospital felt easy.

While clarifying the medical childcare worker's work content about the medical childcare worker's work content which was not clarified until now based on the result obtained by the research for three years, I clarified the operating standard which can be checked according to years of experience. This serves as offer of the medical childcare business unified to some extent, and leads to the quality enhancement of child care with a child's in hospital support, and improvement in the quality of a child's in hospital life.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：医療保育士 入院生活 小児看護の質 成長発達支援 入院児の QOL

### 1. 研究開始当初の背景

小児病棟に入院する児は、忙しい医療の場において十分な生活・発達支援がされないまま長期間の療養や苦痛の多い入院経験をする事が多い(岡村・石井・塚本他, 2001; 金城, 2007)。また、両親やきょうだいから離れて一人で入院する不安や医療処置に伴う恐怖など、身体的にも精神的にも苦痛が多い。そのことが、入院経験、闘病経験による PTSD 発症にもつながると考えられている(泉・小澤・細谷, 2002; 上別府, 2003; 大塚・油谷, 2006)。小児専門病院や大学附属病院などでは、入院児に必要な支援を提供するために小児病棟に医療保育士が配置され、入院児の生活支援、発達保障、母親支援及び医療者との連携・調整などの業務が行われて

いる(金城, 2006)。しかし、一般の総合病院などでは医療保育士に関する認識が低く、また経営的な面からも十分な配置状況にない。そのうえ、配置されている医療保育士の業務内容や役割が明確ではなく、看護師や他の医療者との連携も十分ではない状況がみられた。そこで、これまで小児医療の場で働く保育士の実態やその必要性について調査し、『子ども中心の看護』を提供するための研究をすすめてきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、これまでの研究において明らかにされた入院児の発達支援に医療保育士(小児医療の場に配置された保育士をいう)が必要であるとされた結果から、さらにより広い

医療保育士の場合とその役割の明確化、医療保育士の質向上を図ることによる小児看護の質向上、そのための医療保育のあり方を検討する。さらに、医療保育士の業務の評価指標を作成し、医療保育士の配置を推進するための具体的な検討を行うことを目的とする。

### 3. 研究の方法

研究方法は、調査研究及び介入研究を取り入れた。調査研究では質問紙調査、インタビュー調査、事例検討を実施した。介入研究は医療保育士を対象とした研修会の開催と日本医療保育学会を誘致し、会員だけでなく一般の参加者を導入する学会開催を行い、医療保育に関する啓蒙を図り、保育士の小児病棟への配置の推進をはかった。

①研究 1：研究目的：医療保育士の配置状況と業務内容の明確化（医療保育士を対象とした調査）、保育士が配置されている医療の場と業務内容についての実態把握

②研究 2：研究目的：医療保育士の質の向上（教育・研修会の開催をサポートする。保育士を対象とした調査）医療保育を実施する上で必要な教育内容と教育ニーズの把握、保育士が医療の場で働くために必要な知識・技術の把握

③研究 3：研究目的：医療保育に必要な教育内容の検討及び医療保育士の質の向上（保育学生の調査）、医療保育を実施する上で必要な教育内容と教育ニーズの把握、保育学生の医療保育に関する認識の把握

④研究 4：研究目的：医療保育の概念の明確化、医療保育に関する社会への啓蒙、医療保育に関する一般社会の認識の把握

⑤研究 5：研究目的：医療保育士の業務評価指標の作成（医療保育士を対象とした調査）、医療保育に関する保育士の認識の把握、保育士のかかわりによる入院児と家族の生活、行動の変化の把握

## 4. 研究成果

### 【研究 1：医療保育士の配置状況と業務内容の明確化】

小児科の診療科をもつ病院 1044 箇所（2003-2004 の全国病院リストから抽出）の小児病棟を担当する看護師長を対象に、質問紙を送付した。回収は 450 人（回収率 43.1%）であった。配置率は図 1 に示すように病院に保育士が配置されているものは 26 施設（5.8%）、病棟に配置されているものは 138 施設（30.7%）であり、164 施設（36.4%）に保育士が配置されていることが明らかになった。これまでの調査が 20%台であったことから、徐々にではあるが保育士の配置が進んでいる状況がみられた。

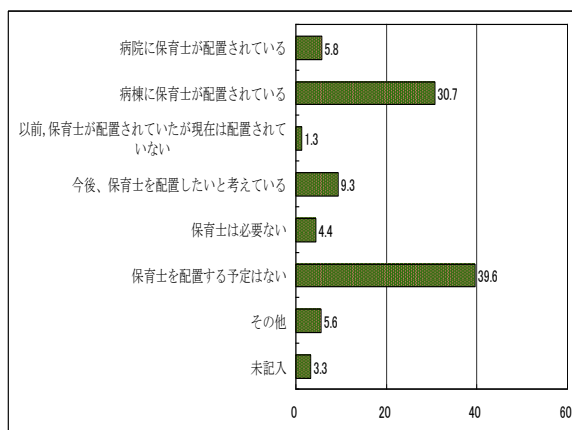


図 1 保育士の配置状況

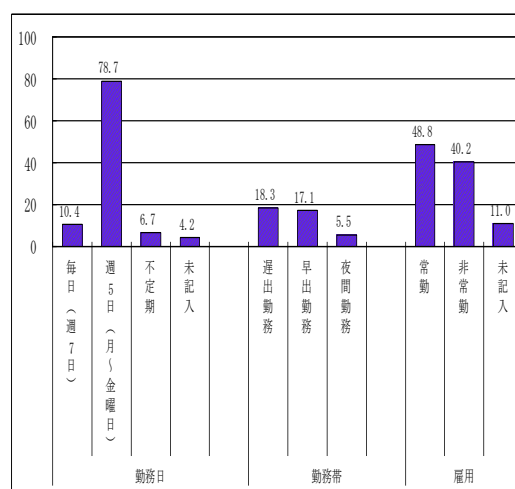


図 2 保育士の勤務実態

雇用では常勤が 80 人 (48.8%) と半数以下、

他は非常勤等であった。また週の勤務日数は通常の 5 日勤務と回答したものが 129 人 (78.7%)、土曜日、日曜日勤務しているものは 17 人 (10.4%) であった。遅出勤務 30 人 (18.3%)、早出勤務 28 人 (17.1%)、夜勤 9 人 (5.5%) 等の勤務実態がみられた。診療報酬制度における保育士加算算定を行っている施設の保育士の中には保育業務以外の業務に従事する者がいた。加算算定上の問題が生じている可能性がある。

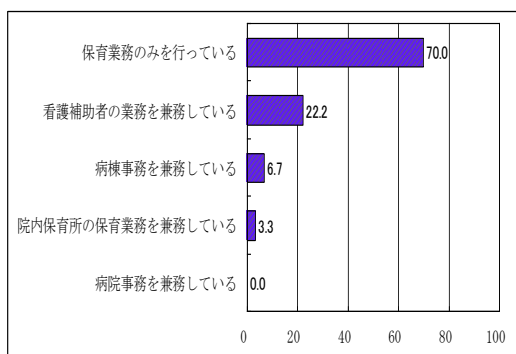


図3 保育士の業務内容

## 2. 【研究2 医療保育士の質の向上】

### 1) 医療保育士の質の向上を図るための教育・研修会の開催をサポートする。

3年間日本医療保育学会全国研修会を実施し、医療保育専門士の研修や資格取得に関するサポートを実施した。参加者の研修評価および研修ニーズの把握を行い、開催準備の参考とした。参加者アンケートの結果では、「実践に役立つ内容の研修であり、業務に生かすことができる」「保育について振り返ることができた」など、業務の振り返り、業務への取り組みなどが明確になった。「同じ医療保育実践者と話ができたこと」「他の施設の概要が理解でき、保育の参考になったこと」など、効果的な研修会が開催できた。

### 2) 医療保育の実践に必要な教育—ベテラン医療保育士を対象とした聞き取り調査—

医療保育士を対象に半構造化面接を行い、医療保育の実践に必要な基礎教育、卒後教育

を明らかにした。保育士養成の課程において必要な教育内容は、「医学的な知識」「遊びの必要性と意味づけ」「入院児の対応の仕方」等があり、卒後教育として必要な内容は「手術した後の子どもへの関わり方」「検査や治療後の子どもへの関わり、理解」などより具体的な医学に関連した知識であった。また、「家族から病院にいる保育士だから医療のことは知っていると思われている」など、福祉職である保育士が医療職と同様の知識や技術が求められていることも明らかだった。

医療保育を実践するためには、基礎教育のカリキュラムを検討するだけでは十分ではない。医療をはじめとする病気や障害のある子どもの保育に必要な、より専門性に関する知識や技術については、卒後教育の内容として学ぶことが重要であると考えられた。

### 3. 【研究3 医療保育に必要な基礎教育のあり方—保育士養成校の学生の医療保育に関する認識と基礎教育内容—】

医療保育の実践に必要な知識や技術について、保育士資格を取得するための教育を受けている学生(大学 147 名, 短期大学 467 名)を対象に調査を実施した。医療保育を实践する上で必要と感じる授業内容について図示したが、病気の子どもへの関わり方、心理に関する知識が9割以上と多くを占めていた。

将来“医療保育士”として働きたいかどうかについて、働きたいと回答したものは 22 名 (4%) と少なく、働きたい気持ちはあるが自分にはできないと思う 53 名 (9%)、機会があれば挑戦したい、151 名 (24%) と多かった。現状の教育内容では医療保育の実践が難しいことが結果に反映されていた。これは「保育園で働くよりも、医療の場で、子どもも親も不安や複雑な気持ちを持っていることが多いと思うので、より大変だと思う」などの医

療保育のイメージ結果からも推察できた。

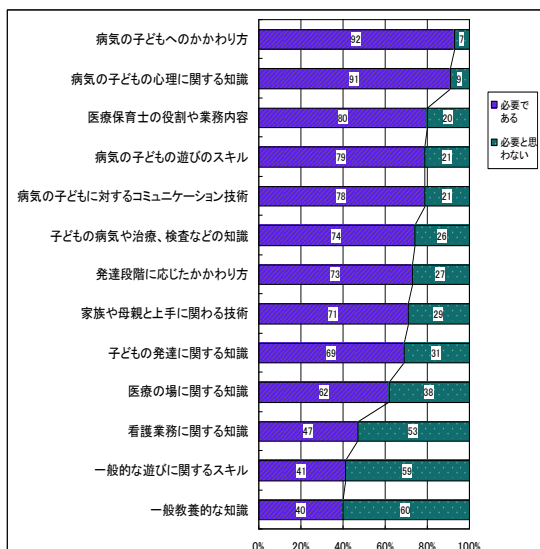


図 4 医療保育を実践する上で必要と感じる授業内容 (N=288)

#### 4. 【研究④：概念の明確化】

日本医療保育学会第 15 回大会は、平成 23 年 6 月 4 日 (土) 5 日 (日)、沖縄県北部の名桜大学を会場として開催した。参加者数 382 名、沖縄県外からの参加者約 180 名であった。開催については、医療保育士や一般の方への医療保育の啓蒙を図ることを最大の目標とした。医療保育の認識、イメージ、必要性について調査を実施した。回答は 82 名から得られ、医療保育を知らないとの回答が 1 割にみられた。学会参加動機は、興味があった、ポスターを見て興味を持った等の回答があり、自主的に参加している状況がみられた。

医療保育に関するイメージでは、「病棟の保育士」、「医療に必要な人」、「病気の子どものケア」等、抽象的な表現の記述が多く、「自分が医療に勤務するまで知りませんでした。子どもの生活を組み立てる職種と思っていました」「病院で働く保育士、どんな仕事をしているのかわからなかった」などの認識であった。学会参加後は「痛みや困難さを背負う子どもたちや家族の強い見方という感じ、すばらしいと思う」「子どもがいる病院には

ぜひ必要、規制を厳しくせず、連携が取れているならある程度、病院や施設で積極的に動いてもらったほうがよい。これからの職業という感じ」「医療保育の必要性を改めて感じた。社会で医療保育の重要さがもっと認められて欲しいと強く感じた」など、必要性や積極的な導入を示唆する記述が多かった。

#### 5. 【医療保育士の業務評価指標、経験年数別医療保育業務基準の作成】

質問紙調査、医療保育士を対象としたインタビュー調査、事例検討などの業務基準作成プロセスの結果をもとに、経験年数によって実践可能な業務を明確にし、医療保育業務基準として作成した。各項目は、経験年数別に実践可能な業務を提示し、初心者 (2 年以下の経験者)、中堅 (3~5 年経験者)、ベテラン (10 年未満の経験者)、10 年以上の超ベテラン経験者のチェックリストとした。項目は 9 カテゴリー、95 細項目を表示した。以下に作成した項目を表示する。

##### 1. 【環境調整】

- ・子どもの発達段階を考慮した環境の調整ができる
- ・事故防止に配慮した環境調整ができる
- ・感染防止対策が理解できる
- ・感染防止対策が実践できる
- ・子どもの生活の場として、安全な環境が用意できる
- ・子どもが気軽に遊びにこられるようなプレイルームを用意できる
- ・遊び環境の整備として、おもちゃの管理が十分にできる
- ・子どもの成長発達を促すための環境を整備することができる
- ・病棟内 (病院内) の装飾に配慮することができる

## 2. 【遊び(保育)の支援】

- ・発達段階に応じて保育計画が立案できる
- ・保育目標(年間, 月間, 日々)に応じた保育計画を立案することができる
- ・入院児の病気の特徴や安静度に配慮した保育実施ができる
- ・病状や治療, 検査に応じて柔軟に保育計画を修正, 立案することができる
- ・入院期間の長短に応じた保育実践ができる
- ・子どもの興味や関心を引き出す遊びが提供できる
- ・子どもが遊びに集中できる時間をできるだけ多く確保できる
- ・保育を実践するにあたり, 必要な情報を収集できる
- ・実践した保育内容を記録することができる
- ・子どもが安心して入院生活を送ることができる遊びの場を準備できる
- ・保育士が関わることで遊びの幅を広げることができる
- ・集団遊びを通して他児と一緒に行動できるような関わりができる
- ・個室隔離の子どもに楽しみを持たせるような遊びの援助ができる

## 3. 【生活(養育)支援】

- ・生活リズムの形成ができるよう, 個別の生活時間の管理, 調整ができる
- ・夜間の睡眠が十分取れるような生活リズムの調整ができる
- ・食事の付き添い, 介助をすることによりバランスのよい食事摂取ができる
- ・他児と一緒に食事をする場の調整ができる
- ・保育士としてオムツの汚れを教えるような関わりができる
- ・保育士が関わり, 1人でトイレに行けるなど自立を促すことができる
- ・保育士の関わりにより食事前の手洗いができる
- ・保育士の関わりにより歯磨きができる

- ・保育士の関わりにより, 年齢によっては自分で更衣ができる
- ・保育士として子どものしつけ(日常生活動作の確立)に関わり, 発達をうながすことができる

## 4. 【心理, 情緒面への支援】

- ・保育士が関わり, 子どもの情緒を安定させることができる
- ・入院初期の心理的安定を図ることができる
- ・子どもの不安な気持ちを受け止めることができる
- ・子どもの笑顔を引き出すことができる
- ・保育士が関わることにより, 泣くことが少なくなる
- ・入院生活が楽しいということばを引き出すことができる
- ・子どもが主体的に行動できるような関わりができる
- ・行事に参加する気持ちを持てるような援助ができる
- ・自分の意思で好きな場所に移動できるような関わりができる
- ・子ども同士の会話や交流が多くなるような関わりができる
- ・治療に積極的になれるような言葉かけや対応ができる
- ・処置や検査における不安の軽減を図ることができる
- ・思春期の子ども話を聞くことができる
- ・思春期の子どもの相談相手になれる

## 5. 【教育, 学習への支援】

- ・入院児の教育が継続できるように, 院内学級の教師と連携ができる
- ・入院児の学習支援を意識した関わりができる
- ・学齢期の子どもの学習環境を準備することができる
- ・退院に向けて地域との連携(学校, 保健所, 保育園, 幼稚園等)ができる
- ・思春期の子どもの進路相談に関わるができる

る

- ・教育機関から求められる会議などに積極的に参加することができる
- ・子どもたちの長期休暇(夏休み等)の期間の学習への対応、配慮ができる

#### 6. 【家族への支援】

- ・母親からの相談に対応することができる
  - 子どもの入院生活に関する相談
  - 育児相談
  - 病気や治療の相談
  - 経済的な面での相談
  - 学校教育に関する相談
  - 家族関係に関する相談
  - きょうだいの問題
- ・家族が安心して病棟にいられるような場や雰囲気を作ることができる
- ・「保育士がいてよかった」といわれるような関係を築くことができる
- ・家族が治療や入院生活を受け入れて意欲的になるような関わりができる
- ・家族に育児指導や育児支援ができる
- ・おもちゃや遊びの選択、指導ができる
- ・母親を安心させるような子どもとの関わりがもてる
- ・母親が子どもの成長を楽しめるような関わりができる
- ・長期入院児の発達の様子を家族に伝えることができる
- ・保育士の橋渡しにより、家族と看護師の関係がとれるようになる
- ・保育士の支えにより、家族は看護師や医師に意見や要望を伝えることができる
- ・退院後の母親の相談に応じることができる
- ・子どもを亡くした母親の精神的(情緒的)な支えができる
- ・子どもを亡くした母親の相談に応じることができる

#### 7. 【医療者との連携】

- ・保育士もチーム医療の1メンバーとして行動できる
- ・看護師とスムーズな連携を図ることができる
- ・看護師と連携することにより、必要な情報収集ができる
- ・保育実践や入院児の様子について医療者に情報提供することができる
- ・他職種と必要な情報交換ができる
- ・保育実践を患者の診療録(カルテ)に反映させることができる
- ・看護師と協働してメディカル・プレパレーションを実践できる
- ・処置や検査のまえの子どもの不安軽減を図ることができる
- ・処置や検査の後の子どもを受け入れ、安心させることができる
- ・子どもの生活を中心とした病棟管理に関わることができる

#### 8. 【医療の場における保育士としての専門性の向上】

- ・院内や病棟内の勉強会に積極的に参加することができる
- ・専門職として研修会等に参加することができる
- ・保育実践を積極的に発表する機会を自ら作ることができる
- ・後輩の育成ができる
- ・専門職として、常に自己研鑽をしている
- ・「医療保育とは何か」を常に考え、行動できる
- ・リスクマネジメントについて実践できる

#### 9. 【組織人としての業務】

- ・病院から求められる会議などに積極的に参加することができる
- ・病院が企画する研修会や発表会に積極的に参加することができる
- ・所属部所の勉強会や研修に積極的に参加することができる
- ・保育を実践する上で必要なことは、意見として述べるることができる



・医療保育の業務のあり方について、常に考えて行動することができる

作成した経験年数別業務基準は、今後病棟での保育実践者に使用し、修正をすすめる。

さらに妥当性や信頼性を確立するような研究的な取り組みを行い、保育士が使用できる業務基準、業務評価基準の作成に取り組む予定である。本基準は、医療保育について明確にする時の判断材料としても活用していきたい。

6. その他、子どもの生活の質に影響する教育等の調査研究を実施した。

1) 入院児の教育支援および生活支援のあり方—復学支援のあり方—

入院児の教育的な支援として、教育環境、退院にむけた取り組みについて調査した。さらに、アメリカの実情等を調査し、医教連携について考察した。

教育環境については、院内学級の設置 24.1%，養護学校分校の設置 13.8%，訪問学級 8.3%等であり、施設の規模や病棟形態によって大きさがみられていた。

復学支援として退院時調整会議の実施率等を調査した。「対象児すべてを対象に退院時調整会議を実施している」と回答したものは 24(5.4%)、「実施していない」は 241 (53.9%) であった。退院時調整会議の実施者は、臨床側は主治医 121(91%)，受け持ち看護師 104(78.2%)，看護師長 103(77.4%)の順に多く，学校側はクラス担当の教諭 111(83.5%)，養護教諭 75(56.4%)であった。退院時調整会議をコーディネートする者としては看護師長が最も多く 51(38.3%)，次いで院内学級教師が 31(23.3%)，受け持ち看護師が 27(20.3%)であり，原籍校の教員のコーディネートはわずかに 3名，2.3%であり，ほとんどの施設におい

て復学にともなう会議の開催については、医療側が窓口となっている現状がみられた。

入院児の教育については、医師や看護師、さらに学校側の理解にも大きな差があり、調整には多くの課題があることもみえてきた。しかし、入院児にとって大切な生活である教育の機会を奪わないための場づくり、そのための医教連携の推進を進めなければならないと考える。

2) 復学支援に関する視察では、NY洲の

The Cancer Center for Kids at Winthrop-University HospitalおよびStony Brook University Hospital, LLC (がんセンター) の視察を行った。入院児にとって必要な生活である遊びと学習への支援について、視察した。

3) 医療保育の継続性—病気や障害のある子どもの保育、医療保育の継続性を考える—

入院児の生活支援は、看護師と医療保育士の協働によって行われている。子どもは本来の生活の場である家庭や地域から離れ、ある一定の期間、病院や施設などの生活を経験する。これまで、子どもにとっての特殊な環境である病院や施設での支援のありかたについて、医療保育士の業務や子どもへのサポートに関する研究を進めてきた。しかし、入院期間の短縮化、在宅への移行を推進している。そのため、医療保育士には退院後の子どもの生活を視野に入れた関わりが求められる。そのため、在宅での遊びの支援、病院から地域の保育所への移動にともなう連絡体制の整備、受け入れ状況の確認など、病院と地域との連携が医療保育士の業務とも考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

①大見サキエ 三浦恵莉子 坪見利香



金城やす子 河合洋子 加藤千秋 中島玲子 泉真由子 相曽容貴子 須場今朝子 (2011) アメリカ NY州における小児がん患者の復学支援の現状① Stony Brook University Hospital における復学支援プログラム 小児看護 Vol133 No3 へるす出版 P390-394

②三浦絵莉子 大見サキエ 坪見利香 河合洋子 金城やす子 加藤千明 中島玲子 泉真由子 (2011) アメリカ NY州における小児がん患者の復学支援の現状②Schneider Children's Hospital における復学支援プログラム小児看護 Vol133 No4 へるす出版 P531-536

③金城やす子 大見サキエ 坪見利香 三浦恵莉子 河合洋子 加藤千明 (2011) アメリカ NY州における小児がん患者の復学支援の現状③ The Cancer Center for Kids at Winthrop-University Hospital における小児がん支援システム 小児看護 Vol133 No6 へるす出版 P808-813

④河合洋子 大見サキエ 坪見利香 三浦恵莉子 金城やす子 加藤千明 (2011) アメリカ NY州における小児がん患者の復学支援の現状④復学支援と教育を必要とする子どもの権利 小児看護 Vol133 No7 へるす出版 P944-948

⑤金城やす子 (2012) Issues in the life of day care children as identified by care takers. The Asian Journal of Child Care NO 2 P69-77

⑥金城やす子 (2012) The actual condition of medical child-care provider in a pediatric ward THE ASIAN JOURNAL OF DISABLE SOCIOLOGY No 11 P127-139

⑦金城やす子 (2012). 小児病棟における保育士の業務実態と期待されることー全国の小児病棟看護師長の調査からー 医療と保

育 Vol 10 pp 2-11

⑧金城やす子 (2012) 入院児に対する教育支援の取り組みの実態名桜大学紀要 第17号 pp17-28 [学会発表] (計12件)

①金城やす子(2010)遊びや医療保育士に関する看護師の認識 日本保育学会第62回 (千葉)

②西村美穂・安心院朗子・石上智美・金城やす子 (2010) 保育士からみた院内保育所の問題点 日本保育学会第62回 (千葉)

③大見サキエ・岡田周一・本郷輝明・坪見利香 河合洋子 金城やす子 宮城島恭子 鈴木恵理子 濱中喜代(2010)全国調査にみるがんの子どもの教育(復学)支援に関する医師の取り組みの現状ー家族との連携を中心に(1)ー 日本小児がん看護学会(東京)

④金城やす子 (2011) 医療保育を实践するうえで保育士が必要と感じる教育内容ー医療保育経験者のインタビューを通してー 日本保育学会 (松山)

⑤金城やす子 (2011) The Needs of Mothers Caring for Children with Cancer. 第42回国際小児腫瘍学会(SIOP) (ボストン)

⑥金城やす子 (2010) 保育園児の生活において保育士が問題と感じていること 第69回日本公衆衛生学会(東京)

⑦大見サキエ、金城やす子、坪見里香 (2010) がんの子どもの復学支援に関する教員研修会の効果ー特別支援コーディネーターの意識変容ー 第30回 日本看護科学学会学術集会 (札幌)

⑧佐藤雅、金城やす子、福島 (2010) プレパレーションにおける保育士の役割ー網膜芽細胞腫で陽子線療法を受ける4歳男児の事例をもとにー 小児がん学会(大阪)

⑨金城やす子 (2011) 入院児の療養環境としての面会、24時間付き添いの実態 The 3<sup>rd</sup>

Asian Society of child care (那覇市)

⑩玉城絵美 金城やす子 (2011) 名護市の  
保育園に通う幼児の保護者の食意識 The 3<sup>rd</sup>  
Asian Society of child care(那覇市)

⑪金城やす子 (2011) The actual condition of  
medical child-care provider in a pediatric  
ward アジア障害社会学学会 (那覇市)

⑫大見サキエ 金城やす子 (2011) 小児看  
護に携わる病棟の教育支援取り組みの現状  
—病棟看護師長に対する質問紙調査— 日  
本育療学会 第15回学術集会 (東京)

[図書] (計4件)

①金城やす子 (2010) 『論文作成の手引き  
—医療保育専門士資格取得に向けて—』科研  
費使用

②徳田克己監修、金城やす子他 (2010) 『ヒ  
ューマンサービスに関わる人のための 子ども  
支援学』第2章保健所・市町村センター、第3  
章医療保育 文化書房博文社

③埜監修、金城やす子他 (2011) 『気になる  
子どもの保育』「15. 慢性疾患のある子ども  
3: てんかん」「16. 長期入院をした子ども」  
文化書房博文社

④金城やす子他 (2012) 『小児医療における医  
療保育士のあり方に関する基礎的研究』平成21  
年度~23年度科学研究費補助金(基盤研究(C))  
研究成果報告書

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

[その他]

ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

金城やす子 (KINJO YASUKO)  
人間健康学部看護学科 教授  
研究者番号: 90369546

### (2) 研究分担者

大城凌子 (OSHIRO RYOKO)  
人間健康学部看護学科 講師  
研究者番号: 80461672

### (3) 研究分担者

松下聖子 (MATSUSHITA SEIKO)  
人間健康学部看護学科 講師  
研究者番号: 00572538

### (3) 研究分担者

金城祥教 (KINJO YOSHINORI)  
人間健康学部看護学科 教授  
研究者番号: 00205056

### (3) 研究分担者

前川美紀子 (MAEKAWA MIKIKO)  
人間健康学部スポーツ健康学科准教授  
研究者番号: 70449966